

策定にあたっての考え方

- ・現行の産業振興ビジョン・産業振興新戦略プラン【改定版】で設定した産業の方向性に基づいた成果や課題を踏まえながらも、今回の計画ではより分かりやすい計画を心がけ、できるだけ取り組むべき産業の課題を選び出します。
- ・選び出した課題に対応した産業の方向性に対して、取り組むべき施策をコンパクトにまとめて計画を策定します。

各種統計・調査から

- ・人口は 2005 年以降減少傾向で少子高齢化が進んでおり、2030 年には老年人口が 30%を超える推計となっている
- ・農業産出額は府内 1 位、漁獲量も府内 1 位で 82%を占めている
- ・全国では商店数が減り、年間販売額が増加する中、商店数も年間販売額も増加傾向
- ・工業の事業所数や従業者数は概ね増加傾向
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞
- ・市内での在勤率が 48%にとどまっている
- ・だんじりを活かした産業振興と、だんじりに頼らない産業振興が大切
- ・工業地の拡大、駅周辺の活性化、貯木場の利活用を

各ワーキンググループから出たキーワード

- 【ワーキング A】
「熟練者」としての高齢者労働力、プロジェクト型の異業種交流、創業者の経験・知識に応じた支援、管理者層の育成、生産性向上
- 【ワーキング B】
海・山・歴史資源の再認識と魅力発信、観光資源を市民・観光客ともに知ってもらう、地産地消で地域経済を回す、高付加価値の特産物、人材不足の解消
- 【ワーキング C】
デジタルディバイド（情報格差）の解消、デジタル化、SDGs、産学官連携、岸和田市の地勢を PR した創業支援、若年層流出防止、子育て世代の取り込み、IT 産業の創業支援

産業振興ビジョン

基本理念

（検討中）

- 10 年後の岸和田市の産業を展望すると、市内事業者を支援して新型コロナウイルス感染症からの影響により落ち込んだ経済の回復を図ることが大切です。
- 一方、にぎわいの創出や交流人口の拡大に向けて、デジタル化等の産業基盤の整備や企業・研究機関の誘致を図るとともに、時代に対応した共創力によるイノベーション（岸和田市にある地域資源・人材・技術を総動員して新たな価値創造）により持続的な発展を目指すことも大切です。
- 加えて、多様な働き方の実現を支援するなど、働く環境を充実させ、生涯にわたって人が育ち活きる環境づくりを進めるほか、積極的に IT・環境・エネルギー等先端産業の振興を図ることにより、新たな魅力を創造し、経済の好循環を生み出すことが大切です。
- そうしてつくり出された活力は、岸和田市の魅力として高まり、住んでみたい、働きたい、子どもを産み育てたい、歳を取っても活躍したい、と思える賑やかなまちへとつながります。

各種統計・調査から

- ・だんじりの全国的な知名度が高く、地域の繋がり、地元志向が強い地域との認識
- ・観光・訪問する施設では「道の駅 愛彩ランド」や浪切ホールを目的地にする人が多い
- ・商店街や観光地での休息及びカフェ等の人が集う場づくりが必要
- ・産業発展には若い働き手と顧客が必要、将来を担う若者へ学ぶ機会を与えるべき
- ・経営者の年齢は 60 代が約 3 割、70 代以上は約 25%、事業承継 7 割希望・後継者決定済み 27%
- ・令和 2 年当初から広がった新型コロナウイルス感染症の影響で、出荷・売上高、予約・受注、原材料価格、営業利益において 4 割台の事業者が令和 3 年においても悪化傾向となっている
- ・事業者からは、施設や設備投資への支援、国・府からの情報提供が比較的重要視されている
- ・40 代までの市外への人口流出がみられ、若い世代の人材が不足している
- ・定年退職後の高齢者の再雇用に取り組んでいる事業者が約 4 割、外国人の雇用は約 1 割
- ・働き方改革やワーク・ライフ・バランスは約 2 割の事業者が売り上げや利益の減少を懸念し、女性の活躍推進については 47.7%の事業者が取り組んでいることは無い、と回答している
- ・2015 年の地域経済循環率が 73%となっており、府全体（106%）よりも低い循環率
- ・今後の新規または強化したい取り組みとして、「新規顧客の獲得」が半数を超え、次いで「新分野への進出」「新事業の立ち上げ」「新商品・サービスの開発」が 1 割台となっている
- ・新商品コンテストや起業家教育で創業や事業の創出を促進してはどうか

基本目標

- 1 岸和田の歴史・文化・自然を活かし発展する産業
- 2 時代に対応し、共創力で持続的に発展する産業
- 3 働く環境が充実し、生涯にわたり人が育ち活きる産業
- 4 新たな魅力を創出し、経済好循環を生み出す産業

産業振興プラン

※今後、基本方針に基づく主な施策を記載

基本方針

各種調査から

- | | |
|---|--|
| 1 地域資源の発掘・活用
2 農商工連携による観光振興
3 地域・キャリア教育 | <p>←「だんじり」「岸和田城」「農産物」を活かしたい</p> <p>←岸和田産のものを地元の人に知ってもらうことが必要</p> <p>←工場見学等で地域産業に関心を持ってもらいたい</p> |
| 1 事業者経営支援
2 商品・サービス開発支援
3 関係団体との連携 | <p>←ビジネス支援機関はさらに力をつける必要がある</p> <p>←各社ができることを持ち寄って、新たな事業展開を</p> <p>←異・同業種間の連携支援は満足度・重要度共に低い</p> |
| 1 雇用対策
2 誰もが活躍できる場づくり
3 職場環境づくり支援 | <p>←約 4 割が欲しい人材集まらず必要人数を確保できない</p> <p>←教育・研究機関と連携・活用し、社会人の学び直しを</p> <p>←子育て世代にとって住みよいまちづくりを</p> |
| 1 先端産業の振興
2 創業支援
3 企業誘致 | <p>←生活課題に対応できるような IT 産業等の誘致を</p> <p>←今後取り組みたい事業は環境 16.6%、IoT 等 7.1%</p> <p>←港湾や丘陵地区の賑わいづくりに取り組むことが大切</p> |